



## 第3回再生利用WGでの主な指摘事項とその対応

2024年1月19日

環境省環境再生・資源循環局

委員のコメント	対応方針案
<p>1 長泥地区環境再生事業における盛土の沈下計測結果について、一層目の盛り立て時期はいつか、盛り立てから沈下までの期間はどの程度か。</p>	<p>資料2-1に再整理しました。</p>
<p>2 安全性を考えるとときに、福島 of 土壌の移行係数について、諸外国の移行係数と比較して非常に小さい移行係数であると評価してもらうためにIAEAに示す必要があるのではないか。</p> <p>また、IAEAより大変保守的な安全評価を行っているが、もう少し現実に即したモデルを検討する予定はあるか。</p>	<p>IAEAには当省がこれまで実施した安全評価において使用したパラメータを示しており、保守的なパラメータ値により不確実性に対処しているとの評価を頂いております。</p> <p>また、個別事業においてその場所の特有の情報を考慮に入れるため、現実的な安全評価も有効であるとのIAEAの助言を頂いており、ご指摘も踏まえて今後の対応を検討していきます。</p>
<p>3 手引きをまとめる時は、除去土壌の放射能濃度を8,000Bq/kgと捉えるのではなく、用いる土壌の実際の放射能濃度レベルに応じて、講じる措置の濃淡も検討をすべきではないか。</p>	<p>ご指摘を踏まえて検討を進めてまいります。</p>
<p>4 実証事業で得られた知見に対する検討案をまとめているが、設計施工の前に計画段階を考慮した方が良いのではないか。</p>	<p>資料3-1に再整理しました。</p>